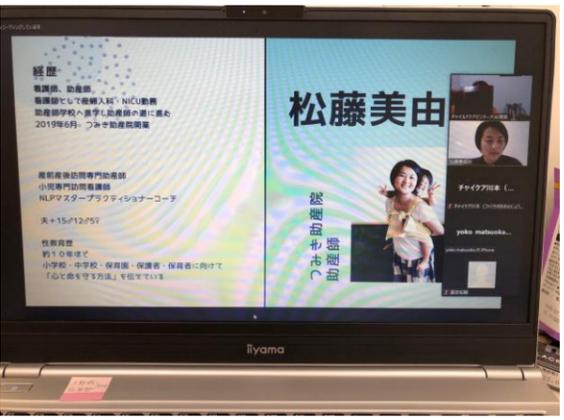


団体名	NPO法人チャイルドケアセンター		活動タイトル	乳幼児虐待防止セーフティーネット事業				
<b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b>				<b>■ 活動風景</b>				
<p>● <b>望ましい社会状況（ビジョン）</b></p>	<p>当団体の実現したいビジョンは「子どもを真ん中に、地域で育て、育ちあう」である。核家族化の進行や地域社会のコミュニティの希薄化に伴い孤立しがちな子育て世帯を支援するために、幅広い世代の多様な社会参加・交流の機会をつくることを通じて、子育てに関わる人の精神的、経済的な安定と子ども達の生きる力を育み、豊かな人間関係が形成される地域社会づくりに寄与することを目的とする。また、社会参加や交流の場を提供することで社会的ネットワークやコミュニティを構築し、孤立を防ぎ、虐待の防止につなげる。「子どもは家族だけでは育てられない」ので「子どもは地域全体で育てる」ことを理念に子育て支援を行う。</p>			<p>集団託児の様子</p>				
<p>● <b>団体の社会的役割（ミッション）</b></p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は「子どもを真ん中に、地域で育て、育ちあう」ことである。具体的には以下のような取り組みを推進する。</p> <p>①虐待防止…社会的ネットワークの狭さや孤立からくる育児不安により、虐待に発展することを防ぎ、安定した育児環境が継続できるように支援する。</p> <p>②コミュニティの構築…虐待に発展する恐れを引き起こす「孤立」の環境を作らないために社会的ネットワークや地域社会のコミュニティの構築が急務であると考え。幅広い世代の多様な社会参加や子育て中の保護者同士の仲間づくりなど子育て中の悩みや苦悩など共有や共感できる環境を作り、育児の楽しみを感じることができるよう支援する。</p>							
<p>● <b>団体の活動基盤</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい人的資源：託児のスキルを積んだ子育て経験スタッフや集団託児スタッフの調整、育児相談のコーディネート、育児講座のマネジメントを担える人材が常に活躍していること。</li> <li>●望ましい物的資源：コロナ禍の状況を鑑み、育児相談や育児講座のオンライン化におけるタブレット等の環境整備など協賛企業からの寄付で行えるネットワークが構築されていること。</li> <li>●望ましい活動資金：活動を通じてより広く市民から賛同を受け、自主財源である賛助会費を十分に確保し、財源力を保持していること。</li> <li>●望ましい情報：託児スタッフのスキルアップ研修や集団託児スタッフの調整、育児相談のコーディネート、育児講座のマネジメントを行う際の工程やマニュアルなどが充実していること。</li> </ul>							
<b>■ 活動報告</b>		<b>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</b>			<p>オンラインにてスタッフ研修会の様子</p>			
<p>● <b>集団託児</b> 適切な母子・父子分離を行い、リフレッシュした気持ちで子育てに向き合えるよう、保育士を含む子育て支援経験のある保育スタッフが対応し、集団託児を行った。</p> <p>● <b>育児相談</b> 悩みを共有することで孤立感が緩和し、親としての自己肯定感が高まるよう、子育て中の保育士が相談の対応にあたった。</p> <p>● <b>育児講座</b> 1回目は公認心理師、元公立保育所所長が座談会形式で育児や親子関係など多方面の悩みに寄り添った講座を行った。2回目は助産師による性教育を含めた心の育ちについてオンラインにて講座を行った。日曜日開催で父親の参加もあり、性についての学びを深めた。</p> <p>● <b>スタッフ研修会</b> 地域の子育て支援者同士が講座を通して、悩みや情報を共有した。</p>		<p>● <b>集団託児</b> ①開催 22回（当初計画96回）コロナの緊急事態やまん防により大幅に減少 ②目標アウトカム：利用保護者の100%がリフレッシュでき、育児不安が減少したと回答</p> <p>● <b>育児相談</b> ①開催 17回（当初計画12回） ②目標アウトカム：5段階アンケートは実施できず、聴き取りによる気持ちの変化ではほとんどの保護者が育児不安が減ったと答えた。</p> <p>● <b>育児講座</b> ①開催 2回（当初計画3回） ②目標アウトカム：保護者の100%が子育てに対して前向きな気持ちになったと回答</p> <p>● <b>スタッフ研修会</b> ①開催 1回（当初計画3回） ②目標アウトカム：受講者の86%が支援の不安が減少したと回答</p>						
<b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b>		<b>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</b>					<b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b>	
<p>● 成果測定の方法としてGoogleフォームを利用したアンケートを行い、参加者のニーズや課題の把握、また、アンケート調査の手法等学ぶことができた。</p> <p>● 事業終了後の受益者の姿や気持ちがどのように変化することを目標に立てるのか、成果目標や指標の立て方、アウトカムや課題、事業の報告の方法など、MCF研修により、理解が深まった。今後は団体が事業を行うにあたり、事業終了後の受益者の変化、どのように生活や気持ちの変化をどのようにイメージし、成果目標や指標を立てるのかを精査し、事業計画に活用したい。</p> <p>● 公認心理師、元公立保育所所長、助産師、保育士、子育て支援者など計15名の支援者による子育て支援スタッフの研修を行った。研修は座談会形式で行い、子育て支援スタッフが個々の課題や悩みが共有できようとした。託児や相談を受ける際の感情のコントロールや保護者理解が進み、他の事業でも研修会での学びを展開し、運営の強化のつながった。</p> <p>● 今後の課題として、コロナ感染対策として、講座や研修会を行う際にzoomを利用したオンライン形式にしたが、zoomへの参加の方法がわからず、参加を躊躇される方がいた。オンライン参加の方法を丁寧に案内することが必要だと思った。</p>		<p>①集団託児 ②育児相談 ③育児講座 ④スタッフ研修会を実施したが、以下のような課題が浮き彫りになった。</p> <p>①保護者により安心していただくために写真や動画で楽しく遊んでいる様子をお伝えする仕組みがあることで、お子さんの家庭とは違った一面を知ることができ子育ての喜びにつながると感じた。②曜日を決めて保育室を開設するとより気軽に相談できる環境を作ることができたのではないかと感じた。③保護者の悩みに寄り添うために講座の回数を増やし、多様な悩みに対応する必要性を感じた。④地域の子育て支援者同士が情報を共有するためにも研修会の機会を増やし、子育て支援者自信が孤立することなくつながることの必要性を感じた。また、地域社会から孤立し、困っているご家庭に情報をお届けするにはどのように発信すべきか、行政と連携、多胎児家庭の支援など課題が山積していることに気づきがあった。</p>			<p><b>この1年間の活動を通じて</b></p> <p>「子どもは地域で全体で育てる」という理念の下で保護者が支援者と共に成長し、孤立感を減らし、虐待とは無縁の子育てを行うこと</p> <p><b>を達成しました。</b></p> <p>■ <b>受益者の具体的な変化（自由記入）</b></p> <p>・託児、相談、講座を通じて「リフレッシュでき、落ち着いて子どもと向き合えるようになった」、「子育てに前向きになった」などの気持ちの変化があった。・スタッフの研修の機会を持つことで、保護者の孤立感の解消や虐待防止などの支援の社会的意義を確認でき地域社会に貢献している意識を持つことができた。</p>			